

# 十勝組だより

上半期を終えて



十勝組々長 照映  
千葉

新三役の体制となり三月末で上半期丸二年、助さん格さんに両脇を支えられながら何とか過ごしてきました。感謝に堪えません。

平成二十四年に引き継ぎをし、最初に重点プロジェクトとして災害復興支援を掲げ取り組んでまいりました。

白木前組長の時には、まず仙台別院を拠点として支援活動をしている方達の交通手段として軽四自動車を寄贈しました。そして三月に一周忌法要への出勤と協力。

私自身、法要に参加をし復興はまだこれからという現状を目の当たりにし、継続事業としなければならないという思いを強く抱

きました。



きました。

昨年三月に三回忌法要とジンギスカン・三平汁の炊き出しボランティア、十二月末には仮設住宅での「お茶っこ」並びに胆振組と合

同で温泉保養へご招待と活動を行つてまいりました。

そんな中、印象的な事は温泉保養に参加された方からの言葉でした。それは震災以降、外でお酒を飲

りました。

平成二十四年上半期を終えてお



## 【重点プロジェクトを中心とした実践運動】 「御同朋の社会をめざす運動」 をふりかえる

平成二十四年三月に策定された宗派の総合基本計画の中に「御

## 第31号

発行所 新得町立教寺院内  
十勝組々長事務所  
発行人 千葉 照映  
題字揮毫 妙覚寺住職 暁谷  
氏

むのは初めてです。「楽しいな」「樂しいな」と連発され、生まれてこの方、あんなに人からお札を言われた事はありませんでした。また明日から仕事の活力になります

と握手をしたことあります。

復興は始まつたばかり。二十六

年度も引き続き災害対策委員会に

て計画を進めて参りたいと思って

おります。

組内各部に於きましてもそれぞ

れ目標を掲げ、事業、研修会を開

催頂きました事に厚くお礼申し上

げます。二十六年度も活気ある組

となるようご尽力頂きますようお

願い申し上げ上半期を終えてのお

礼とさせて頂きます。

せん」とあります。

実践運動十勝組委員会では組のテーマを「御同朋の社会をめざして共に歩もう」と掲げ、組の重点项目を灾害支援(東日本大震災はじめとする被災者への支援)として運動を推進して二年が経過しようとしています。

災害支援活動では平成二十四年

度は支援金の募金活動と被災住民

支援ボランティア(アツア)一(平成二

十五年三月三日～五日)を開催し十七名が参加。岩手県(花巻市、釜石市、大槌町、平泉町)を訪ね、

被災地視察、大槌第八仮設住宅での三回忌法要と焼き出し交流、観

ました。

平成二十五年度も同じ重点プロジェクト内容で被災地の声に耳を傾けながら、今できることを実践し、一つ一つ積み重ねていくべく活動してきました。

今年度の組への支援金は合計一、〇〇八、〇七一円でした。被災地の現状を学ぶ特別研修会を七月八日に西然寺様を会場に開催しました。参加者は二十七名。講師は音更町役場防災係長の山本智久氏、講題は「岩手県大槌町への派遣を終えて」でした。「被災地を忘れないこと」「少しでもできることを考えてやつっていく」「派遣当時、災害FM放送や岩手日報『忘れな

## 総代会部 総会・研修会

十勝組総代会部部長 桃井 信之

総代会部では、平成二十五年度の総会・研修会(第二十六回)を四月二十六日、帯広別院にて開催いたしました。総会では、恒例の事業報告・計画・収支決算・予算等の審議に加えて役員補充の件もありましたが、全て承認されました。研修会には、清水町・妙覚寺ご住職・脇谷暁暢師にご出向いただ

けられました。研修会には、清水町・妙覚寺ご住職・脇谷暁暢師にご出向いただ

き、「ご縁」ということ」という講題でお話いただきました。脇谷師はこれまで、教区・組内において数々の要職を歴任され、また

佛教の大家として全国に馳走する重鎮であります。御歳八十を越えられた現在でも、現役の布教使として私たちを「教導下さつております。



今後も被災された方々の現状を的確に把握し、私たちができるさまざまな支援活動を組全体で考え実践していきましょう。

十勝組仏教婦人会部部長 御幸誓見

平成二十四年より連協の組織が変更となり、臨時総会(平成二十

五年三月二十九日)を開催し会則を改正しての活動が始まりました。

井上八重子新会長(西然寺婦人会)の元でのスタートとなり六月十七日に総会を開催しました。平成二十五年度は四年に一度の全道仏教婦人大会が、斜里・知床にて六月二十七・二十八日に第三十回大会と

して開催され多くの方々の参加をみました。七月三日には十勝組仏教婦人大会、若婦人研修会を広尾町音音寺若院・頬田光明師をご講師にお迎えして開催しました。平

年の前でお話しさせていただくなつたいたるお寺に来たご縁、そして皆さまはお寺の総代をいただいています。ただ総代として一番大切なことは、ご門徒の先頭に立つ者として、率先してお寺

に足を運び、聴聞させていただくことにつきる。初めてお寺に来たときにはお骨になつていて、などということがないように、日頃からお寺と深いご縁を結ばせていただきましょう」とご教示賜つたことです。

# 十勝組 仏教壮年会

十勝組仏教壮年会 部長 佐藤 誠

## 十勝組仏教壮年会

### 総代会・研修会

平成二十五年度の総会・研修会は、五月十四日、帯広別院を会場として開催されました。参加者は四十六名でした。

【講師に音更町・妙法寺副住職・石田智秀師をお招きし、「ご信心をいただく」という講題でお話いただきました。淨土真宗のみ教えにおいて一番大切な「ご信心」について、ご自身の体験談をまじえながら、「阿弥陀様が私を救つてくださる事実を聞いたままが、『ご信心』自分が力を入れて信じる必要はない」と、わかりやすくお話し下さいました。

### 十勝組総代会・壮年会

#### 合同同一泊研修会

恒例の総代会・壮年会合同同一泊研修会が、平成二十六年二月十一～十二日、一泊二日の日程で、十勝川温泉・觀月苑において開催されました。

【講師に上川南組・天寧寺住職・



## 青少年部

### 活動報告

部長 藤本 実円

りま

本來ならば青少年キッズサンガ部としては第二回目のキッズサンガの開催や、実際に子ども会を開催して下さる寺院や門信徒の方々向けに研修会を開催して、子どもたちのご縁づくりに力を注ぐべきでしょうが、絵本の完成を中心にお披露目ができたらと計画しております。

組内寺院の小学生を対象に七百五十九大遠足法要お待ち受け「十勝組キッズサンガ」の中で上演した『お父さんとだいちゃん』は、今年三年目を迎えた東日本大震災

毎一ヶ月間北海道に招待し、この二十年間でおよそ百名の被災児の里親となつておられます。支援物資を持参しての現地ペラルーン永江雅俊師をお招きし、「いのちの地平線・仏法の祖座」と題してお話をいただきました。永江師は、およそ四十年前から「脱原発」を主張され、今日まで運動を継続してこられた方です。「日本ペラルーン市民友好協会」の創設者であり、現在その代表を務められています。チエルノブイリ原発の被爆三十数km圏内の被災者・慢性放射能障害に苦しむ子どもたちを、

どこに向かって生きるのか」と、原子力学者・高木二三郎氏の言葉を引用しながら、仏教者として、現代社会における原発に関わる現状を憂う、とお話し下さいました。永江師の命がけの身業説法を聴かせていただいた尊い研修会でした。

それを受け、平成二十五年度は更に子どもたちに歩み寄り身近に『お父さんとだいちゃん』を語り継ぐ手段として絵本にして読み聞かせ形式で命の学習ができたらと計画し、一年間を費やして参りました。が、原稿の見直しや作画を最初から立ち上げる作業等が困難を極め、大幅に遅れ次年度にはお披露目ができたらと計画してお

## 十勝組寺族婦人会この一年

十勝組寺族婦人会会長 藤原美香

今年度の活動として、五月一日『春の研修会』を午前中スカイディノスにおいてレクリエーションとしてボーリングを楽しみ、昼食より二名が加わり十五名で東日本大震災へ焼き出しボランティアに行かれた光明寺曰井ちさとさん、

光音寺頼田経子さんの2名からお話を伺い、支援の継続の大切さを教えていただきました。

七月六日には『夏の研修会』として、帯広別院仏教講演会の笑福亭遊喬氏他の落語を聽講しました。

七月十八日には『親睦旅行』として、十三名の参加で富良野方面に出かけ、チーズ工房・ワイン工場を見学し、知識と教養を高め!試食・試飲を楽しみました。バスの中でも話も弾み楽しいひとときを過ごしました。

十月二十二日『秋の研修会』は帯広別院において、十四名の出席のなか、脇谷暁暢師を講師としてお迎えし、物故者の追悼法要を厳修した後、ご法話をいただきました。当日の資料には坊守としての大切な心得等が書かれていて、大切にさせていただいています。

昨年度になりますが、三月十日には俊教寺坊守椎原りの様が、そして今年度の十一月十一日には真経寺前坊守賀陽千鶴子様が往生され、永きに渡り坊守として生き抜かれたご一生に敬意を表し合掌

させていただきました。

また、北海道教区の寺族婦人会の活動としては、六月四日『総会研修会』が札幌別院で開催され全道各地より六十名ほどの寺族婦人が集まりました。

物故者追悼法要の後、総会が行われました。研修会においては、東日本大震災の被災者三名をお迎えし、現状等をうかがい、どのような支援が必要とされるのかを考える機会を得ました。

懇親会において被災者のお母さんと子供さんも出席されておられましたが、食事をおいしそうに食べる子供さんに自分の料理をほとんど食べさせていました。

研修の際に「子供に安心してお腹いっぱい食べさせたい」と言っていたことを目の当たりになりました。翌日は日高組にて寺族婦人会・仏教婦人会の合同研修会に参加されると言うことでした。十勝組においても教区と連携をとることも良いと思いました。

十一月二十六日には『若手寺族婦人のつどい』が同じく札幌別院を会場として開催され、十勝組からは五名の出席がありました。被災者の保養受け入れの実状や運動の大変有意義な研修会でありました。

三月末で任期満了を迎えた四月から新役員の方々により新たにスタート致します。任期の間多くの方の支えとご協力をいたいたることに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



研修部報告

部長 脇谷 晓融

二〇一三年度末までの行事報告、  
ならびにこれから来年度に向けての計画をお知らせします。

一昨年度の宗本区分を受ける形  
で「基幹運動」から「御同朋の社  
会をめざす運動（実践運動）」に  
形を変え、組における運動体制自  
体もより柔軟になったとの同時に、  
それまでの基幹運動（特に同朋運  
動）の成果を継承する必要に迫ら  
れています。特に北海道教区では、  
九四年以降の差別事件からの学び  
をよりていねいにする事が今後も  
大切だと考えています。

毎年度、十勝組では運動推進の  
ために開催してきた僧侶研修会  
の名称を「十勝組御同朋の社会を  
めざす運動推進僧侶研修会」とあ  
らためました。本年度八月二三日  
に開催。前伝道院主任講師の谷川  
弘顯師をお迎えし「御同朋の社会  
をめざす」ということ、伝道・教学  
の課題とテーマを設定し、より  
具体的な伝道の実践の意味を学び、  
意見を交わす中で深めました。來  
年度（二〇一四年度）におきまし  
ては、従来通り一〇月開催（一〇

月二二～二三日）で一泊を計画し  
ています。

また、来年度に向けて念願であ  
った「十勝組第一〇期門徒推進員  
連続研修会（連研）」の募集を現在、  
組内各寺に向けてお願いをしてい  
ます。募集〆切は五月一六日、第  
一回の開催を五月末という計画で  
進めています。

連研は、対象者の年齢制限が三  
年前に撤廃された状況の中、現代  
社会に置いて人口のピークを迎え  
ている団塊の世代を中心とする方々  
に照準を合わせた目的で、新たに  
「連研ノートE」が作成されたこ  
とは、既に本願寺新報二月一日号  
でご承知かと思います。

今回第一〇期のスタッフ（研修  
部十公募に応じて頂いた三名を加  
えて）ではこの「連研ノートE」  
のすべてを扱えないまでも、織り  
交ぜて行く中で、話し合い法座の  
問い合わせ立てるべきかと考えて  
います。さらなる募集、ご参加をよ  
ろしくお願い致します。

さらに現在、積み重ねてきた「十  
勝組テレホン法話」を引き続き運  
用中であります。テレホン法話の  
法話順は、別途ご依頼をさせて頂  
いておりますが、運用に支障がで  
ないよう、四月と一〇月の段階

でA4文書でご依頼をさせて頂い  
てあるのにあわせて、本年度より  
直近のほぼ一ヶ月前に担当者に直  
接ハガキにてご依頼をさせて頂い  
ております。今後もよろしくお願  
い致します。

また、来年度に向けて念願であ  
った「十勝組第一〇期門徒推進員  
連続研修会（連研）」の募集を現在、  
組内各寺に向けてお願いをしてい  
ます。募集〆切は五月一六日、第  
一回の開催を五月末という計画で  
進めています。

連研は、対象者の年齢制限が三  
年前に撤廃された状況の中、現代  
社会に置いて人口のピークを迎え  
ている団塊の世代を中心とする方々  
に照準を合わせた目的で、新たに  
「連研ノートE」が作成されたこ  
とは、既に本願寺新報二月一日号  
でご承知かと思います。

### 被災地支援と課題

光明寺 白井 教生

昨年の十二月二十二～二十四日  
にわたり、十勝組東北支援ツアーア  
（胆振組合同）が行われ、岩手県

十二人が参加。十勝名物の六花亭  
のお菓子を味わいながら、千葉・  
高田住職による雅楽の演奏や、皆  
で歌を唄うなどして、しばしの時  
間ではあつたが、涙あり笑いあり  
の和やかなひと時を過ごさせて頂  
いた。

震災から間もなく三年目を迎  
る中で、仮設住宅で生活する方な  
りのご苦労話を聴かせて頂き、二  
時間半余りの滞在ではあつたが、  
今の私たちに出来る事は何かを考  
えさせられる縁であった。

午後からは隣町の大槌町に向か  
った。

今回は胆振組との合同企画で、  
大槌第八仮設住宅の三十二名を、  
震災以降昨年八月に復活オーブン  
した町内のホテルにご招待。私達  
スタッフを含めた合計五十七名で、  
忘年会を開催した。



釜石市と大槌町を訪ねた。今回十  
勝組からは千葉組長を始め、各寺  
院より僧侶や婦人会の方々を合わ  
せて八名が参加。

二十三日午前中に、釜石市内に  
ある仮設住宅である甲子（かつし）  
団地を訪問し、「お茶っこ」（岩手  
県でいうお茶会）を開催させて戴  
いた。当日は晴れの天気にも関わ  
らず底冷えのする中を、団地の方々

十二人が参加。十勝名物の六花亭  
のお菓子を味わいながら、千葉・  
高田住職による雅楽の演奏や、皆  
で歌を唄うなどして、しばしの時  
間ではあつたが、涙あり笑いあり  
の和やかなひと時を過ごさせて頂  
いた。



全道仏婦大会に参加して

玄哲寺

本年(1911年)六月二十六

日二十七日、知床ゆめホーク（斜

里町において

道仙教婦人大會（北見東經主管）

方正義著

第三章

三一七

大会テーマ「伝える、私から未

記急講演や講談

二二九

卷之三

四庫全書

記念講演は、九州からお越し頂

いた内田美智子先生をこ講師に

一〇二

卷之三

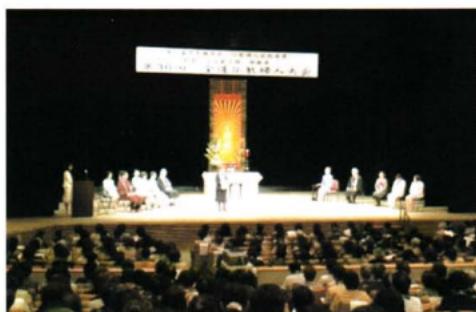
支那の歴史と文化

## 経験から「生」と「食」について

深く考えさせられることになります

六九

飽食の時代と言われる昨今、私達は何の“いのち”を頂いているのかが見えにくくなっている中で、



この頂いたいのちをつないでいく  
子供たちを大人は育む使命がある  
！「いのちが大事なんじやない。

「うことかもしません。」と言わ  
れていたことが、煩惱を抱えなが  
ら生きていく、人間の姿なのかも知  
しれないなあ……と聴講しながら感  
じさせらました。

講演後、今度はラジオパーソナリティーもつとめられている中田美知子さん。歌手のやなせななさんが加わり三人での鼎談があり、それぞれの立場や経験から「伝えよう／わたしから未来へ／」のテーマのもとお話をされたり、鼎談後は、やなせさんのコンサートがあり、素晴らしい歌声に魅了され、あつたいう間に時間が過ぎ、全道仏壇大大会も閉会を迎えるました。

そこからは懇親会・宿泊先で  
ある知床第一ホテルへと場所を  
移動。美味しいお料理を味わいな  
がら交流を深め、また、気持ちの  
良い温泉に癒されながら、知床の  
夜を皆さん過ごされました。翌日  
は、開通したばかりの知床横断道  
路を観光したり、羅臼の道の駅で  
は、ご要望のお土産タイムをしつ  
かりと確保したことから、皆さん  
大いにショッピングも楽しられて  
いたようです。

の婦人会の方々の素敵な笑顔と、どこから出でてくるのか不思議な笑い声に、時間を感じさせず楽しませて頂きました。

「大切なものを残し、伝えていく大切さ」を、一時で終わらせ、これから的生活につなげていきたいとも思いました。

## 全道布教大会に参加して

仏照寺住職

藤本 実円

諸先輩のお勧めにより、この度



ご本山に布教使任用届けを提出してから三十年、一番に緊張した時間で、ご講題として頂戴しました。本典・後序のお言葉を失念してしまった事態に『そらんじても基本に忠実たれ』と教えて下さった山本仏骨先生のお言葉を今、改めてしみじみと繰り返しております。

肩に力が入り、どこかよそ行きの顔をしていたのであります。頗る申し上げたい』その一心でお受けしたこの度の布教大会でした。一昨年に先代住職を亡くし、父として「生老病死」何一つ私の思い通りにならない有り様を、生身の体をもつて伝えて下さったその姿に「お互に限られた命を生きている。お前だけ例外でないぞ」と、記憶を失いながらも、病気になつてまで、骨になつてまでも、命をかけて伝えてくださり、引受けさせていたいた方に頭が下がります。

お礼が申せるまで私は、多くの方々のご苦労と、たくさんの命にどれほど背を向けてきた私であったことでしょうか。背を向けていた、その私が救いの目当てと氣

付かされ、「お札を申し上げる」時間と場所を下さった諸先輩に只々、頭が下がります。

## 「僧侶研修会」

### 開催について

平成二十五年度の「十勝組僧侶研修会」が九月二十七日・二十八

日の二日間にわたり十勝川温泉「観月苑」に於いて開催されました。

ご講師は東京教区より万行寺住職、

本多静芳先生（元武藏野大学助教授）をお招きして「現代社会と淨土真宗」宗祖のいのりと歴史認識

という講題でお話し下さいました。

信心とは何か対象的なモノを信じ込むことではなく、目覚めを基本

とする主体的な体験であり、その内実は「願作仏心度衆生心」の自利利他圓満の心に生きる事である。

そしてそのことは、信心の「しるし」として私の生き様に何らかの形で現れてくるものであるという

ことを「ワカメの味噌汁」と「ワカメと味噌汁」との違いのたとえ話でお示し下さいました。つまり「信心と生活」ではなく、「信心の生活」であり、信心が私の心に頂けたならば、「ワカメの味噌汁」のように自ずとその風味や香りが

## 「十勝組お祝いの会」

### 開催について

平成二十五年度の「十勝組お祝いの会」が十二月五日午後六時三

十分より「帯広はげ天」に於いて開催されました。今年度の慶寿対象者は西然寺・白木弘遵様（住職退任・住職五十年）・白木幸久様（住職繼職）、大船寺・三浦敬信様（住職退任・三浦敬篤様（住職繼職、本證寺・平林暁仁様（住職繼職）、妙法寺・石田秀誠様（僧籍五十年）

変わつてくるモノであるという事をお話し下さいました。



の六名の方がありました。  
千葉組長の挨拶の後、慶寿対象者を代表して  
西然寺の前住職・白木弘遵様より感謝の言葉と  
今まで住職として苦労したお話や若き僧侶に対  
する熱き思いをお話しささいました。  
今年度は三十名を超える多くの僧侶が参加さ  
れ、楽しくお酒を酌み交わしながら慰労と激励  
の思いに満ちた一時を過ごしました。

相手の感情に寄り添う  
ビハーラ活動の実践

信行寺衆徒  
廣瀬  
大輔

平成二十五年五月から二十六年二月の一年

せていただきました。



平成二十五年五月から二十六年二月の一年を通じて行われた、第二十三期ビハーラ活動者養成研修会に参加させ晴らしい先生方のご指導

導の下、熱意を持ってビハーラ活動に取り組む

仲間に出会えたことによって、ネットワークが広がり、大変実りある研修会となりました。

私はビハーラ勝の会員であると共に、ビハーラ勝の活動施設である帶広慈恩の里の職員でもあり、この利点を活かし、どのようにビハーラ活動ができるのか、また、ビハーラ活動僧侶としての基本的姿勢を学ぶ、ということを

テーマにこの研修に臨みました。

今回の研修では医療現場や福祉現場で活躍されているビハーラ僧の方による講義がありまし

光明寺開基住職　白井教海様  
平成二十一年九月十二日往生　行年一〇一歳  
真経寺第3世坊守　賀陽千鶴子様  
平成二十五年十一月二十五日往生　行年一〇三歳  
平成二十五年度において、お二人の方が往生されました。永年のご苦勞に対し、厚くお詫申しあげますとともに、深く哀悼の意を表します。

訃報

た。その中で「ビハーラ僧だからといって特別なことができるわけではない」という言葉が印象的でした。医療や福祉現場で求められるビハーラ僧としてのあり方は、「僧侶として人として、患者さん、ご家族の悩みをともに悩み、自らの無力さを知りつつ、医療スタッフとともに、患者さん、ご家族を支えるために、どんなことでもさせていただく、という姿勢が大切である」と話されていました。その姿勢を持つて、患者さんやご家族のいのちの意味を支えるお手伝いをさせていたたく存在が、ビハーラ活動者であることを学びました。

今後ビハーラ活動を行うにあたり大切にしていきたいことは、相手の感情に寄り添うという傾聴の姿勢を養っていくことと、福祉現場の二楼をビハーラに届けることによつて連携を図ること。そして、ビハーラ活動が継続して行われるよう、まずは自分自身にビハーラ活動を定着させることができ大切であると思つています。より良いケアを目指しこれからもビハーラ十勝の活動に参加させていただきます。

編集後記

☆宗門目標 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)  
☆総合テーマ 「そっとつながる ホッがつたわる  
～結ぶ縁から、広がるご縁へ～」

テレホン法話 (0155)21-7777  
十勝組ホームページ <http://www.tokachiso.com>  
北海道教区ホームページ <http://www.hokkaidohongwanji.jp>  
〔IDは寺院番号6ヶタ、パスワードは教区時報第194号に各寺同封〕